

TOPIC 1 | JBN、工務店評価制度の申請受付を開始 施工能力を見える化義務化へ

工務店の業界団体である(一社)JBN・全国工務店協会は、工務店評価制度の評価実施機関として申請受け付けを開始した。

工務店評価制度は、国土交通省が業界団体と推進する「建設キャリアアップシステム(CCUS)」の仕組みを活用して実施するもの。評価制度を実施しようとする専門工事業団体等が施工能力等の見える化評価基準を策定し、国土交通大臣が認定。評価基準を策定した評価実施機関が、認定された評価基準に基づき、評価を実施する。現在、「建築大工」をはじめ、「型枠」、「エクステリア」、「内装仕上」、「外壁仕上」などで評価基準が認定されている。

JBNは、全国建設労働組合総連合、(一社)全国住宅産業地域活性化協議会などと共に「建築大工」の評価実施機関の1団体として認定されており、このほど、建築大工が所属する中小工務店等を、見える化評価の対象とする「工務店評価基準」の評価申請受け付けを開始した。



基礎情報	★★★★★
施工能力	★★★★★
コンプライアンス	★★★★★

評価を受けた事業所は、国交省が作成した「専門工事業体の施工能力等の見える化評価制度ロゴマーク」を使用できる

「工務店評価基準」は、中小工務店等を対象とした「工務店評価基準」、個人事業主や一人親方等を対象とした「工務店評価S基準」の2種類を設けている。建設業許可年数、資本金、完成工事高などの「基礎情報」、CCUSカード保有者数、能力評価3以上の者の割合などの「施工能力」、処分歴、社会保険加入状況などの「コンプライアンス」の3項目を、1つ星から4つ星で評価する。

JBNは、工務店評価制度を、地域における仕事確保・人材育成・社員処遇改善の好循環を具体的に作り出していくための制度と位置づけ展開していく考えだ。

TOPIC 2 | 断熱化で新たな知見、暖かな家は健康寿命が延びる

(一社)日本サステナブル建築協会が「住宅の断熱化と居住者の健康への影響に関する全国調査」の報告会で、暖かな住まいと健康に関する最新の知見を明らかにした。今回は、まだ論文にはまとめられていない“得られつつある知見”が速報として報告されたことが特筆できる。

具体的には、断熱等性能等級2・室温15℃、等級4・室温18℃、等級6・室温21℃という3ケースについて、40歳で住宅を取得し90歳まで生活するシミュレーションを行った。50年間の生涯費用(医療費、工事費、暖房費)と、健康寿命(質調整生存年QALY)を比較した速報値によると、等級2の住宅に50年間暮らした場合に比べ、等級4と等級6は総じて生涯費用は変わらないにもかかわらず健康寿命が延びる。また、40歳で等級2の家を取得し、55歳で等級4また

は等級6に改修して90歳まで生活するというシミュレーションでは、改修費用が高くなることから生涯費用は200万円以上アップするが、健康寿命は新築の場合と同様に伸びるとみられる。

医療費は高血圧・循環器関連でシミュレーションしているが、健康指標には睡眠などさまざまな要素もあり、これらも考慮すればさらに効果は大きくなる可能性があると言われている。

一方、断熱化によりリスクの高い入浴習慣の改善も見込めそうだ。報告によると、居間と脱衣所の冬季の在宅時平均室温が18℃以上あると、熱め入浴する確率が優位に低くなる。さらに断熱改修により室温が上昇すると、熱め入浴が優位に減少した。

今知りたい情報がここにある
住生活産業のための
情報プラットフォーム

Housing Tribune Online premium

ハウジングトリビューン オンライン プレミアム

https://htonline.sohjusha.co.jp/premium/